

日本は世界でも珍しく四季のはっきりした国です。

古くから万葉集で数々の花の詩が詠まれているように、四季折々の花と暮らすことにより

季節の移り変わり、生きていることの喜び生命の尊さを感じることこそ、日本人のココロと言えるのではないのでしょうか？

盆栽の、掌で感じる四季の変化には、『育てること』に喜びがあるのです。

育て方ポイント。🌱

1. 置き場所を決める。

陽あたりや風通しを考えると、盆栽園のように庭で育てるのがベストですが、都心のマンション暮らしだと、なかなかそうもいきません。

とりあえず、部屋の外に出て、一日を通してよく陽のあたる場所を見つけてください。

日照時間はもちろん長いほうが良いでしょう。

最低でも、一日3~4時間は陽にあててあげたいですね。

(盆栽園は日照時間を第一の立地条件として建てていますので、日当たりはととても良いのです。)

コンクリートの上のじか置きは、照り返しが強いので、真夏の陽射しだと枯死してしまうことがあります。

2. 水やりのめやす

基本的な水やりの方法は、鉢土の表面が少し乾いてきたら(土が少し白っぽくなる。)鉢底の水抜き穴から水が抜けるまでたっぷりとあげることです。

『乾いてから、穴から水が抜けるまでたっぷりとあげること』で、鉢土の中の古い空気と新しい空気が入れ替わるのです。

その際に、鉢土全体に水をしみわたらせるようなつもりで、丁寧にあげます。水やりの回数のめやすは、季節や環境や種類・大きさによって変わりますが、

春と秋 朝・晩 たっぷりと
夏 朝・晩 たっぷりと
冬 二日 1回



高層のマンションのバルコニーでは、強風のせいで乾きが早いので、様子を見ながら回数を増やします。

頻繁に水やりができない方は...

大きな植木鉢やプランターに小粒の赤玉土を入れ、その中に盆栽鉢の部分だけをすっぽり埋めると水切れには有効です。

また冬は、大きな発泡スチロールの箱に入れて管理するのが便利です。

その他についてはご相談ください。

3. 肥料をあげる

盆栽に普通使われる天然の肥料は、油粕(菜種の油をとった後のものを肥料にしたもの)と骨粉です。

3月 芽だしと伴にやり始めます。
梅雨時(1ヶ月)は、雨で肥料が崩れてしまうことがあるので肥料は与えないか、少なくします。

11月 松柏類は11月まで。
雑木は落葉が終わるまで。
「実もの」は実が止まってからの肥料が大切です。別紙の「実もの」の管理をご参照ください。

12~2月 お休みです。

余談ですが... 多くの書籍では、「夏の間は絶対に与えない」としていますが夏の間もOKです。

肥料の量と与えかた

- ① 肥料の袋に表示された通り実施してください。
- ② 与えかたは、固形は鉢土に少し埋めて、水やりの時肥料がこぼらないようにします。

与える時期

- ① 冬11~2月と、夏7~8月は肥料は与えません。
- ② 花木は開花中は与えません。
- ③ 実がなる木は、実がつく頃はあたえません。

Point!

玉肥を鉢の大きさに応じて根ばりに触れないように鉢縁に1~3個のせます。



4. 剪定する

盆栽として美しい樹姿をつくるために、根ばり・こけ順・幹肌などで大木感を表現しますが、

根ばり → 大地にしっかりと根付いているような根の張り具合。

こけ順 → 樹の根元から先端にかけてだんだん細くなっていく様。

幹肌 → 樹の種類によって異なりますが、鉢の中で長い歳月を重ねるうちに表皮のところどころが剥がれ落ちていくものもあったり、深い切れ込みが入ったりと色々な表情があります。

そのために欠かせない作業の一つが剪定作業です。

...といってもこのスペースでは伝えきれないので 講習会を行っています。